

# 「新入社員の意識」調査

## 調査結果のポイント

- 会社選びは「仕事の内容」が第一。「会社の雰囲気」重視派が増加。
- 会社とは「収入を得る場」。「成果主義」を望む割合も上昇。
- 職場生活における不安は「仕事面」が1位。「生活環境の変化」の割合が上昇。
- 4割以上が社内での「地位にはこだわらない」。「経営者・役員」を目指す層が減少。
- 7割以上が「1つの会社で長く働きたい」と考えている。
- 「結婚したくない」「子供はほしくない」割合が上昇。

## 調査要領

1. 調査目的 平成30年度新入社員の意識動向の把握
2. 調査対象 当社主催「じゅうろく新入社員セミナー」を受講した、岐阜・愛知両県内企業の新入社員
3. 調査時期 平成30年3月～4月
4. 調査方法 無記名式アンケート
5. 有効回答者数 700名 (内訳は下表のとおり)

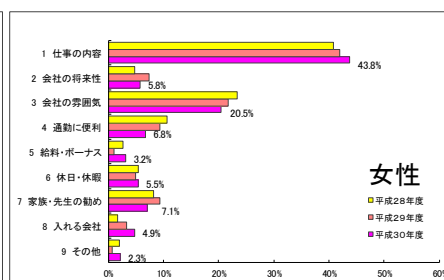
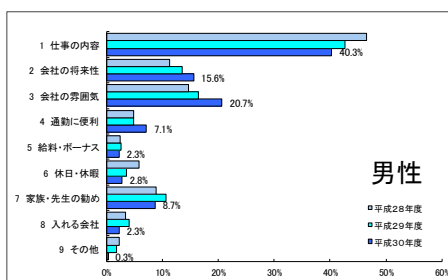
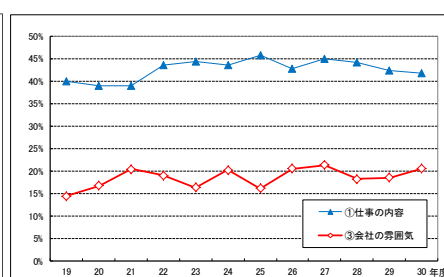
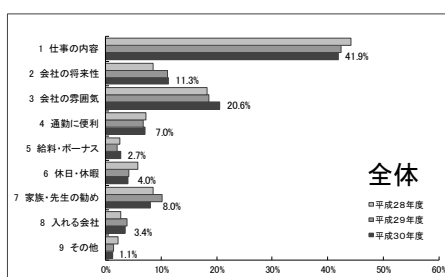
最終学歴	男 性		女 性		合 計	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
大学以上	210	53.6%	124	40.3%	334	47.7%
短大・高専	10	2.6%	35	11.4%	45	6.4%
専門学校	30	7.7%	40	13.0%	70	10.0%
中・高校	142	36.2%	109	35.4%	251	35.9%
合計	392	56.0%	308	44.0%	700	100.0%

(注) 本文中の図表の計数は、単位未満を四捨五入している関係で、内訳の合計等が合致しない場合がある。

## 1. 今の会社を選ぶ際に最も重視したもの

(選択肢)

- ① 仕事の内容に興味があり、自分の能力を活かせると思うから
- ② 会社に将来性があり、これから発展しそうだから
- ③ 経営者の人柄、職場の雰囲気などをみて、自分でもうまくやっていけそうだから
- ④ 通勤に便利などところにあるから
- ⑤ 給料、ボーナスが良いから
- ⑥ 休日、休暇が多いから
- ⑦ 家族や親戚、または学校の先生に勧められたから
- ⑧ 希望する会社ではないが、入れる会社だったから
- ⑨ その他



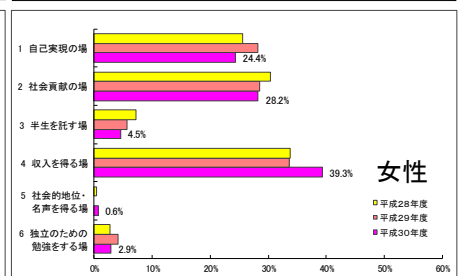
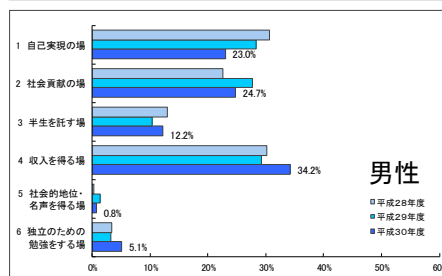
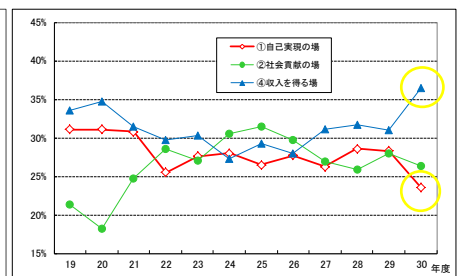
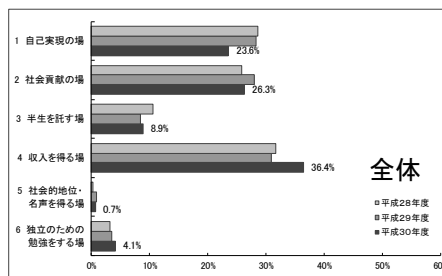
## 引き続き「仕事の内容」は最重要。「会社の雰囲気」の重要度が高まる

会社を選ぶ際に重視したことは、「①仕事の内容」が41.9%（前年比0.5%増）でトップ、2位は「③会社の雰囲気」の20.6%（同2.0%増）、3位は「②会社の将来性」11.3%（同0.2%増）であった。前年比最も増加したのは、「③会社の雰囲気」であり、男性が押し上げた。「⑤給料・ボーナス」については2.7%と僅かであるものの、過去10年で最も高い値となった。

## 2. 会社とはどんなところか

(選択肢)

- ① 自己の個性や能力を活かし伸ばすところ
- ② 社会に役立つことを実践するところ
- ③ 自分の半生を託すところ
- ④ 収入を得るところ
- ⑤ 社会的地位や名声を得るところ
- ⑥ 将来何らかの形で独立したいので、その勉強をするところ



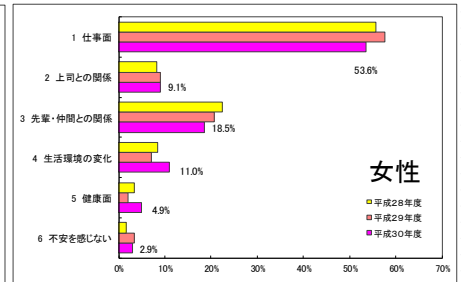
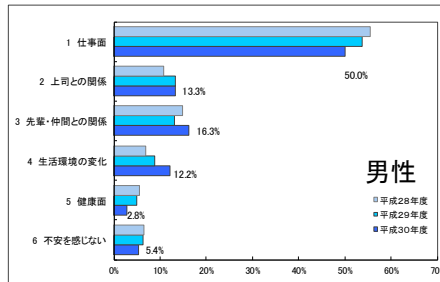
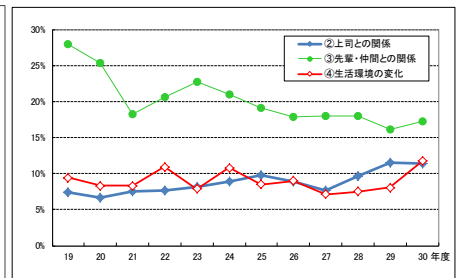
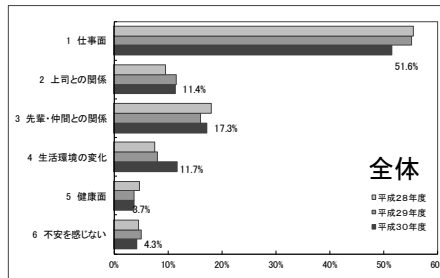
## 「自己実現の場」が低下、「収入を得るところ」が上昇

会社とはどのようなところかという問いでは、「④収入を得る場」が36.4%（前年比5.5%増）でトップ、次いで「②社会貢献の場」が26.3%（同1.7%増）、「①自己実現の場」が23.6%（同4.7%減）となった。経年変化をみると、「④収入を得る場」が過去10年で最も高い値となり、現実的な姿が浮き彫りになった。一方、「①自己実現の場」は過去10年で最も低い値となった。

### 3. 職場生活における不安

(選択肢)

- ① 仕事がうまくやれるか
- ② 上司とうまくやれるか
- ③ 先輩・仲間とうまくやれるか
- ④ 生活環境が変わること
- ⑤ 健康について
- ⑥ 不安を感じない



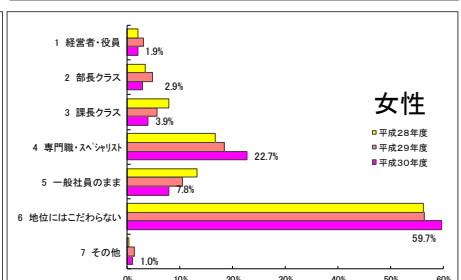
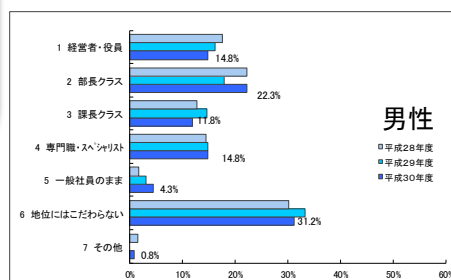
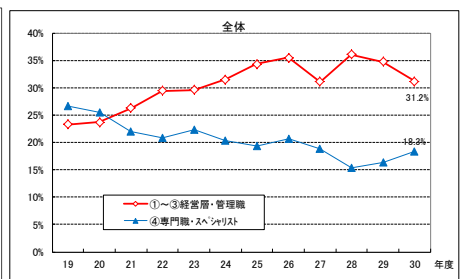
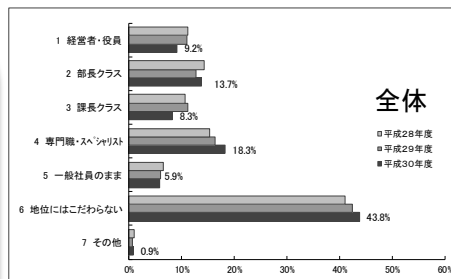
「仕事面」が1位。「生活環境の変化」の割合が増加

職場生活における不安についての問いでは、「①仕事面」が51.6%（前年比3.7%減）で例年同様トップとなった。「④生活環境の変化」は過去10年で最も高い11.7%（同3.6%増）となった。

### 4. 昇進や出世について、目指す地位

(選択肢)

- ① 経営者・役員
- ② 部長クラス
- ③ 課長（支店長、営業所長）クラス
- ④ 専門職・スペシャリスト
- ⑤ 一般社員のまま
- ⑥ 地位にはこだわらない
- ⑦ その他



「経営者・役員」が減少。女性の「専門職・スペシャリスト」志向が高まる

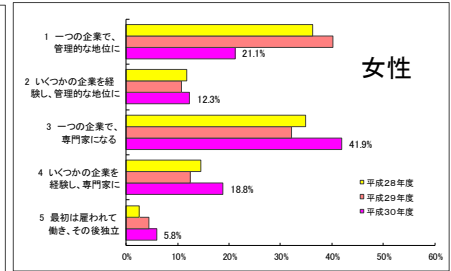
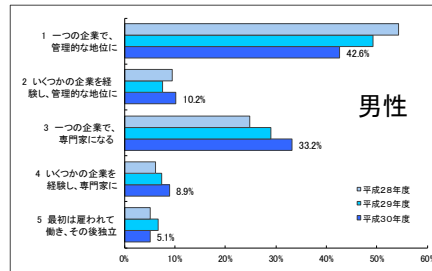
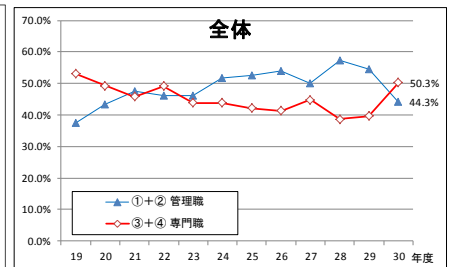
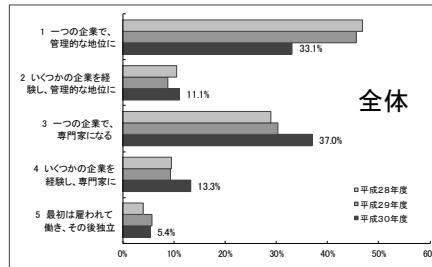
昇進や出世については、「⑥地位にはこだわらない」が43.8%（前年比1.3%増）でトップ、次いで「④専門職・スペシャリスト」が18.3%（同2.0%増）、「②部長クラス」が13.7%（同1.1%増）となった。

減少傾向にあった「④専門職・スペシャリスト」がここ2年上昇しており、女性が押し上げている。一方で「①経営者・役員」は9.2%（同1.8%減）と、過去10年で最も低い数値となった。

## 5. 望ましいと思う職業パターン

(選択肢)

- ① 一つの企業に長く勤め、だんだん管理的地位になっていくコース
- ② いくつかの企業を経験し、だんだん管理的地位になっていくコース
- ③ 一つの企業に長く勤め、ある仕事の専門家になるコース
- ④ いくつかの企業を経験し、ある仕事の専門家になるコース
- ⑤ 最初は雇われて働き、その後独立するコース



### 専門職志向が上昇。7割が「一つの企業で長く働きたい」

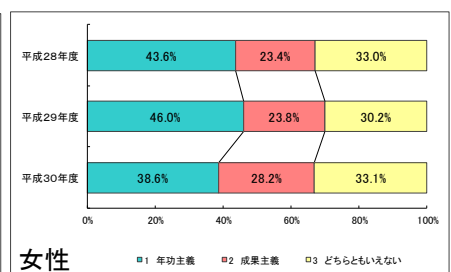
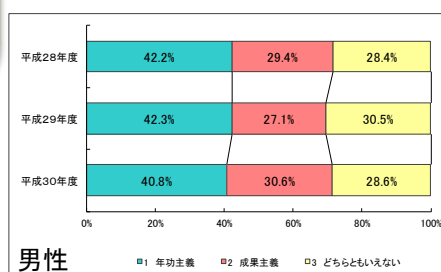
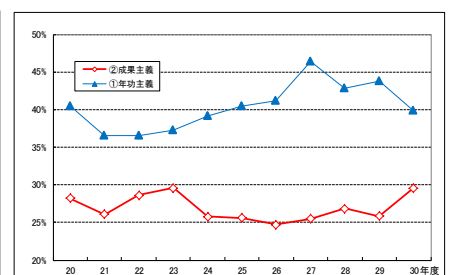
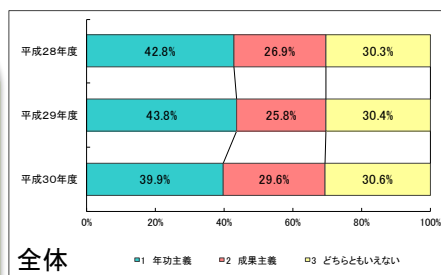
望ましいと思う職業パターンについては、「③一つの企業で、専門家に」が37.0%（前年比6.7%増）でトップ、2位は「①一つの企業で、管理的地位に」で33.1%（同12.5%減）であった。これらを合わせると70.1%となり、約7割が一つの企業で長く働きたいと考えていることが分かった。

また、専門家志向※1が50.3%となり、管理職志向※2の44.3%を上回り、8年ぶりに逆転した。管理職、専門職、独立の中では専門職を志願する新入社員が多いようだ。

## 6. 望ましいと思う昇給パターン

(選択肢)

- ① 仕事の達成度や成果が給料にあまり反映されないが、年齢や勤続年数に応じた昇給がある
- ② 仕事の達成度や成果が給料に大きく反映されるが、年齢や勤続年数に応じた昇給はない
- ③ どちらともいえない



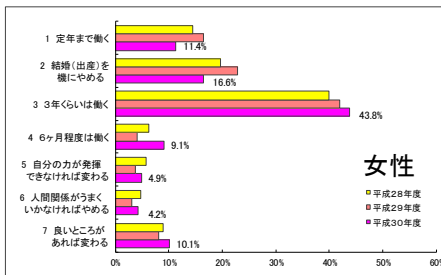
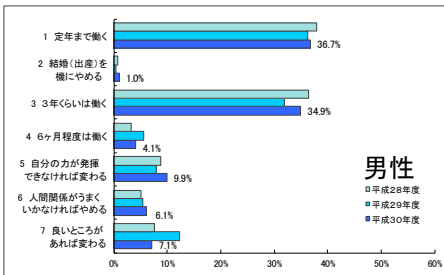
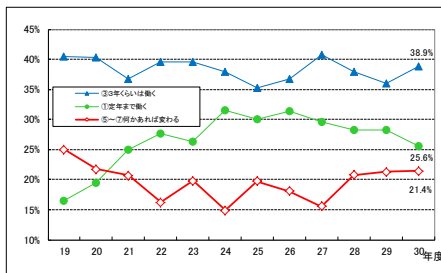
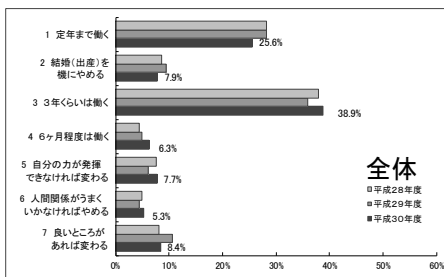
### 「成果主義」の割合が上昇

希望する昇給パターンは、「①年功主義」が39.9%（前年比3.9%減）と、約4割の人が望む結果となった。一方、「②成果主義」は29.6%（同3.8%増）と上昇し、過去10年で高い水準となった。

## 7. 今の会社が考えていた職場と違ったらどうするか

(選択肢)

- ① 入社した以上、定年まで続けて働く
- ② 結婚(出産)を機会に会社をやめる
- ③ 3年くらいは一所懸命働く
- ④ 6ヶ月程度様子を見てから決める
- ⑤ 自分の力が発揮できなければかわる
- ⑥ 人間関係がうまくいかなければやめる
- ⑦ 良いところがあれば、そちらにかわる



### 女性の「結婚・出産を機にやめる」割合が減少

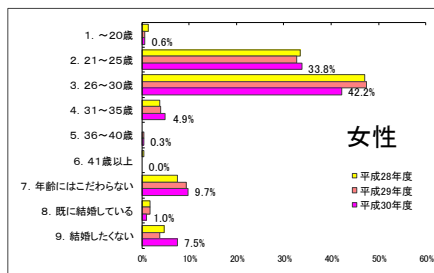
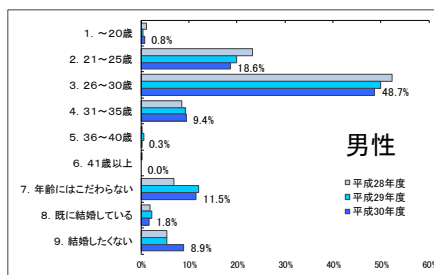
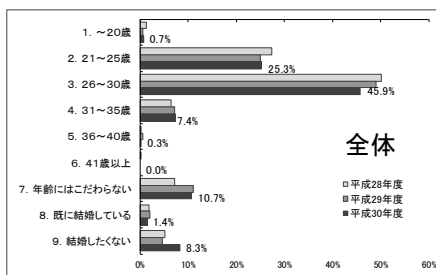
入社前に描いていた職場のイメージと、実際の職場が違った場合の対応としては、「③3年は働く」が38.9%（前年比2.9ポイント増）でトップ、次いで「①定年まで働く」が25.6%（同2.7ポイント減）となった。「①定年まで働く」はゆるやかな減少傾向にある。

過去10年で最も低い水準となったのが、「②結婚・出産を機にやめる」（全体7.9%、女性16.6%）であった。結婚や出産によらず自分のキャリアを考える女性や、結婚や出産を考えていない女性などが増加したのではないかと考えられる。

## 8. 結婚したい年齢

(選択肢)

- ① ~20歳
- ② 21~25歳
- ③ 26~30歳
- ④ 31~35歳
- ⑤ 36~40歳
- ⑥ 41歳以上
- ⑦ 年齢にはこだわらない
- ⑧ 既に結婚している
- ⑨ 結婚したくない



### 「結婚したくない」が上昇

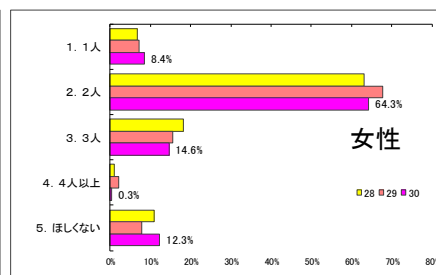
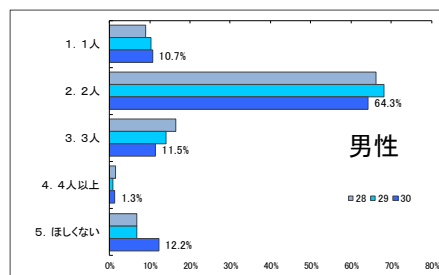
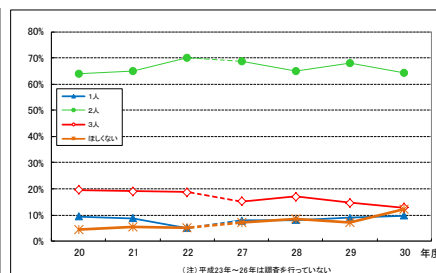
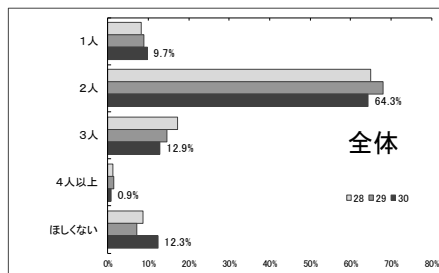
結婚希望年齢は、「③26~30歳」45.9%（前年比3.1ポイント減）、「②21~25歳」25.3%（同0.3ポイント増）、「⑦年齢にはこだわらない」10.7%（同0.3ポイント減）の順となった。

「⑨結婚したくない」が全体で 8.3%（前年比 3.6 ㊦増）、男性 8.9%（同 3.6 ㊦増）、女性 7.5%（同 3.8 ㊦増）と大きく上昇した。

## 9. 子どもは何人ほしいか

（選択肢）

- ① 1人
- ② 2人
- ③ 3人
- ④ 4人以上
- ⑤ ほしくない



**男性：1.79人、女性：1.82人。「ほしくない」が上昇**

希望する子どもの数は、「②2人」が 64.3%（前年比 3.7 ㊦減）でトップ、次いで「③3人」が 12.9%（同 1.8 ㊦減）、「⑤ほしくない」が 12.3%（同 5.2 ㊦増）となった。経年変化をみると「⑤ほしくない」と「①1人」が増加している。

平均希望子ども数は全体で 1.80 人となり、過去の調査と比較すると最少となった。

平均希望子ども数の推移 単位：人

調査年度	全体	男性	女性
H30	1.80	1.79	1.82
H29	1.94	1.92	1.97
H28	1.94	1.97	1.91
H27	1.94	1.92	1.98
H22	2.06	2.04	2.07
H21	2.03	2.01	2.05
H20	2.06	2.07	2.04

（注）平成23年～26年は調査を行っていない。

「結婚したくない」「子供はほしくない」新入社員は、少数派とはいえ増加している。今後もこの傾向が続くと、少子化の更なる進展が懸念される。

（研究員 高木 安希子）